



2018年で100周年

国土交通省 千曲川河川事務所

Chikumagawa River Office
Hokuriku Regional Development Bureau
Ministry of Land
Infrastructure, Transport and Tourism

【取り扱い】 本資料の発表をもって解禁

記者発表資料
平成28年9月7日

されきがわら

千曲川本来の「砂礫河原」を再生します

千曲川では外来植物「ハリエンジュ」や特定外来生物「アレチウリ」が河川内に繁茂し、千曲川本来の「砂礫河原」が大幅に減少し、生物多様性の低下、河川利用の妨げなどが問題となっています。

このため、千曲川河川事務所では検討会を開催し、信州大学の学識者や沿川自治体などから意見を聴取しながら、砂礫河原再生のための掘削工事を行っているところです。

この度、この検討会を下記の通り開催しますのでお知らせします。

記

日時 : 平成28年9月9日(金) 14時00分～16時00分

場所 : 千曲川河川事務所 2階大会議室

委員 : 別紙委員名簿のとおり

- 内容 :
- ①これまでの検討結果の概要
 - ②第5回検討会における指摘と対応事項
 - ③モニタリング結果
 - ④平成29年度掘削予定箇所
 - ⑤今後の予定

その他 : 報道機関のビデオ・写真撮影は冒頭から挨拶までが可能です。
なお、会場の都合により一般の方の傍聴はできません。

【配布先】

- ・長野市政記者クラブ
- ・長野県庁会見場
- ・長野市政記者会
- ・日本工業経済新聞社 長野支局

【問い合わせ先】

国土交通省北陸地方整備局
千曲川河川事務所 026(227)7611
副所長 長谷川 賢市 (はせがわ けんいち)



千曲川河川事務所フェイスブック

検索

クリック

千曲川河川事務所

検索

クリック

<http://www.hrr.mlit.go.jp/chikuma/>





砂礫河原再生の必要性

かつての千曲川
(1964年)
水面の幅が広く、
砂礫河原が広がっ
ている。



現在の千曲川



かつて存在して
いた砂礫河原
が減少し、外来
種により樹林化

外来種の侵入・拡大による在来種の生育環境の悪化



ハリエンジュ



アレチウリ

- ✓ かつての千曲川：
砂礫河原(上写真)が広がり、砂礫特有の生物の生息・生育に適した空間が存在
- ✓ 現在の千曲川：
 - ・乾燥した陸地で見られる植物が河原に繁茂する様になり、カワラヨモギなど砂礫河原ならではの植物が減少
 - ・砂礫河原を利用するコアジサジやコチドリなどの鳥類も減少
 - ・アレチウリやハリエンジュ等の外来種の増加で千曲川本来の環境が変化し、樹林化による景観の悪化や、洪水の流れが阻害されるおそれも発生



砂礫河原の再生や外来植物の抑制を図り、これまでに失われた千曲川の自然環境を取り戻し、生物に適した生息・生育環境を保全することが必要

「千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会」委員名簿

平成28年9月

平林 公男 信州大学繊維学部 教授（座長）
島野 光司 信州大学理学部 准教授
豊田 政史 信州大学工学部 助教
笠原 里恵 弘前大学農学生命科学部 研究機関研究員
北野 聡 長野県環境保全研究所自然環境部 主任研究員
傳田 正利 国立研究開発法人土木研究所
水環境研究グループ河川生態チーム 主任研究員
福島 雅紀 国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室 主任研究官
新家 智裕 長野県建設部河川課 課長
中山 哲徳 長野県環境部水大気環境課 課長
上平 敏久 長野市建設部 部長
小根澤 英児 千曲市建設部 部長
宮嶋 敬一 坂城町建設課 課長
峰村 孝典 上田市都市建設部 部長
吉池 富夫 更埴漁業協同組合 代表理事組合長
富岡 道雄 上小漁業協同組合 代表理事組合長
依田 清二 長野県養蜂協会長野支部 支部長
堤 達也 北陸地方整備局千曲川河川事務所 所長

（事務局）千曲川河川事務所 調査課